

# 滋賀のモノづくりを支える物流の基本的な方向性等について

## 研究の背景

### 1 研究の背景・意義

昨今の人口減少と少子高齢化などを背景に、物流についてドライバー不足に起因する様々な課題が生じてきており、将来の安定した物流環境の確保に向けた対応が必要

## I “物流”を巡る動向

### 1 国内の動向

- ・社会構造が変化中、国内貨物量は減少傾向にあるが、物流件数の増加により小ロット多頻度化が進む
- ・トラック運送業において、規制緩和による過当競争やトラックドライバー不足が大きな課題
- ・国が物流を取り巻く変化への対応として労働環境の改善や物流の生産性向上への取組を実施

### 2 本県における動向

- ・重量ベースでの年間出荷量・入荷量は全国の1%程度であるが、工業製品の割合が比較的高い
- ・輸送機関は営業用トラックが主、近距離輸送の割合が高い
- ・倉庫等の物流ストックは関西では大阪に次ぐ面積。保税倉庫が琵琶湖を囲む形で各地域に立地

## II 本県物流の課題とニーズ

### 1 本県における物流の強み

- ・近畿圏、中部圏、北陸圏の3つの経済圏の結節点という地理的優位性
- ・広域交通（高速道路）アクセスが良く、半径100km圏内で主要な国際港湾や国際空港に接続
- ・県内総生産に占める製造業の割合が全国1位のモノづくり県
- ・内陸型の加工組立型業種が集積し、原材料入荷や製品出荷などの貨物量が安定

### 2 本県における物流の課題

- ・トラックドライバーの高齢化が進展し、人材不足が深刻化しており、若年者ドライバーの確保・育成が急務
- ・リードタイムの短縮化や荷主の時間指定により実車率の低い非効率な運送
- ・荷主企業において長距離運送トラックの確保が困難なケースやピーク時輸送に支障を来すケースが発生
- ・道路の渋滞や降雪時の対応などの課題
- ・市街化調整区域が多く、物流施設の新規立地が難しい状況

### 3 事業者間連携（共同物流）に係るニーズ

- ・荷主企業は、他社との共同運送などに向けた情報交換等の機会を求める声が多く、物流事業者が有するリソースへの関心が高い
- ・運送事業者や倉庫事業者は、物流の効率化への対応等の情報を求める声が多い

## III 本県における課題やニーズに対応していく取組の方向性

### <滋賀のモノづくりを支える物流研究会>

#### 研究の基本方向

- ◆県内のモノづくり企業にとって滋賀であれば物流についての心配はいらぬという環境づくり、イメージの発信を通じて企業の立地や定着につなげる。
- ◆物流業務の効率化・高度化により地域の物流ストックを活かした「地産地送」を推進する。

#### 研究にあたっての3つの論点

##### ○ドライバー人材不足への対応

- ・若年労働者等の人材確保
- ・ドライバーの質の向上・育成
- ・労働環境の改善
- ・業界イメージの向上

##### ○物流業務の効率化・高度化

- ・荷主企業、運送事業者、倉庫事業者間での情報共有化、ネットワークの構築（情報交換・意見交換の場の設定）
- ・地方拠点型共同運送に向けた取組

##### ○物流環境の整備

- ・物流環境に資する道路事業の取組
- ・土地利用規制の緩和

#### 新たな具体的取組の提案

##### ■滋賀の産業を支える人づくり事業（物流分野）

###### （目的）

- ・運送業界における求人と求職のミスマッチの解消や・相互理解の促進
- ・実践的能力を身に付けた人材の確保
- ・若年者の関心の高まりや就業数の増加を期待

###### （内容）

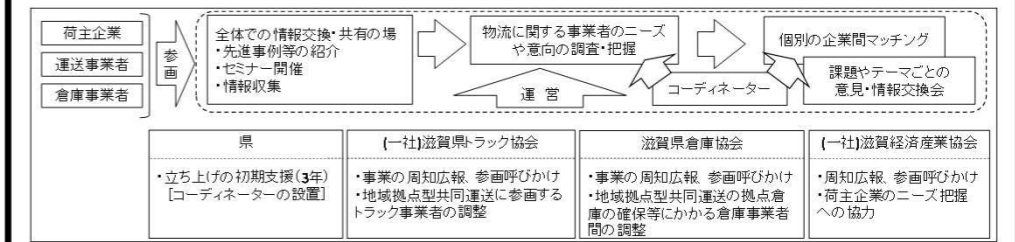
- ・概ね40歳代の大型一種免許取得可能な求職者に3か月程度の訓練を実施
- ・社会人基礎力等の習得、職場実習、大型自動車免許等の取得、物流現場への就職マッチング

##### ■滋賀のモノづくりを支える物流効率化推進事業（プラットフォーム事業）

###### （目的）

- ・季節変動等によるピーク時輸送や低い実車率などでトラックの確保が困難な課題のある荷物や新規輸送需要などへの対応

###### （内容）



###### 【事業スケジュール】

